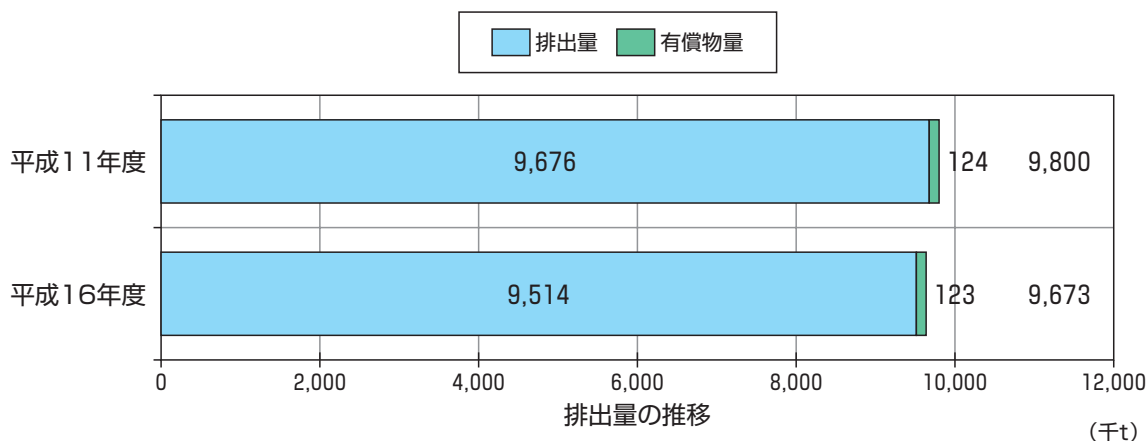


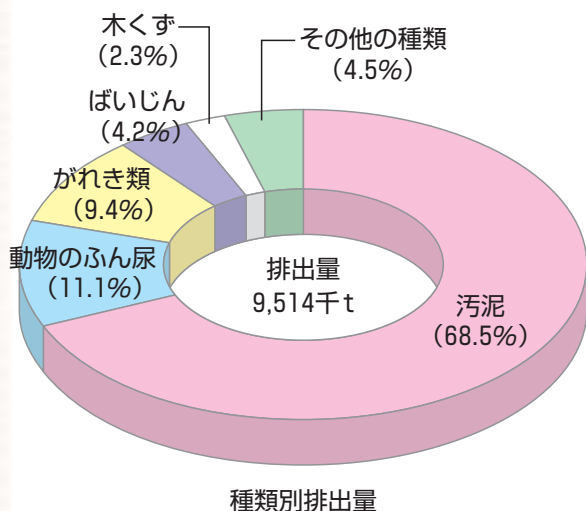
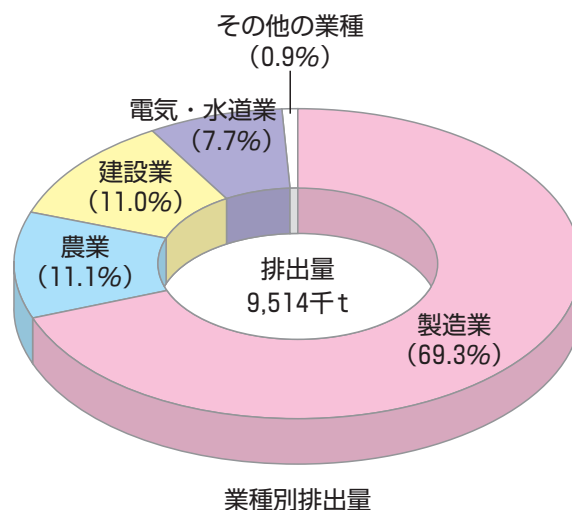
2. 産業廃棄物の現状

(1) 発生・排出状況

平成16年度に県内の事業所から排出された産業廃棄物は、9,514千トンと推計されます。

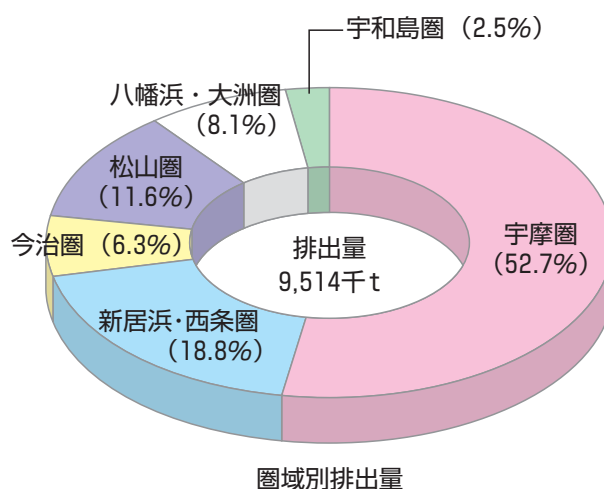


排出量を業種別にみると、「製造業」が最も多く、次いで、「農業」、「建設業」、「電気・水道業」等の順となっています。



種類別に見ると、「汚泥」が全体の約7割を占めており、次いで、「動物のふん尿」、「がれき類」、「ばいじん」等の順となっています。

本県では、製紙業などから発生する汚泥の排出割合が高いことが特徴となっています。



圏域別にみると、「宇摩圏」が排出量の半分以上を占めています。

(2) 処理・処分状況

排出量9,514千トンの内、中間処理による減量化量は6,012千トン（63.2%）、再生利用量は2,468千トン（25.9%）、最終処分量は1,034千トン（10.9%）です。

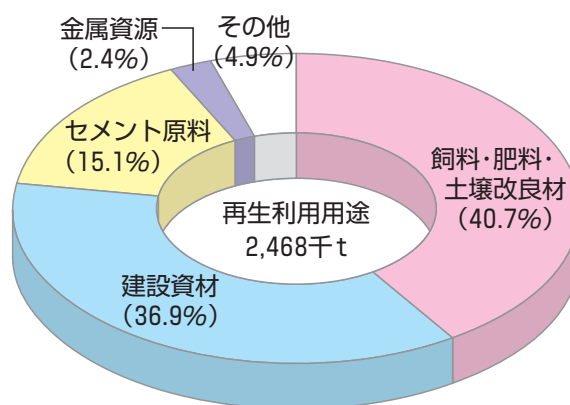
本県は、水分を多く含んだ製紙汚泥の排出量が多いという特徴があることから、減量化率は高いものの、再生利用率は低い状況にあります。

区 分	平成11年度		平成16年度		増減率	
	(千 t)	構成比	(千 t)	構成比		
発 生 量	9,800	100.0%	9,637	100.0%	-1.7%	
	資 源 化 量	2,700	27.6%	2,591	26.9%	-4.0%
	有 償 物 量	124	1.3%	123	1.3%	-0.8%
	再 生 利 用 量	2,576	26.3%	2,468	25.6%	-4.2%
排 出 量	9,676	100.0%	9,514	100.0%	-1.7%	
	再 生 利 用 量	2,576	26.6%	2,468	25.9%	-4.2%
	減 量 化 量	5,763	59.6%	6,012	63.2%	4.3%
	最 終 処 分 量	1,276	13.2%	1,034	10.9%	-19.0%
	埋 立 処 分 量	803	8.3%	542	5.7%	-32.5%
	海 洋 投 入 量	473	4.9%	492	5.2%	4.0%
	そ の 他 量	61	0.6%	0	0.0%	-100.0%

(3) 再生利用状況

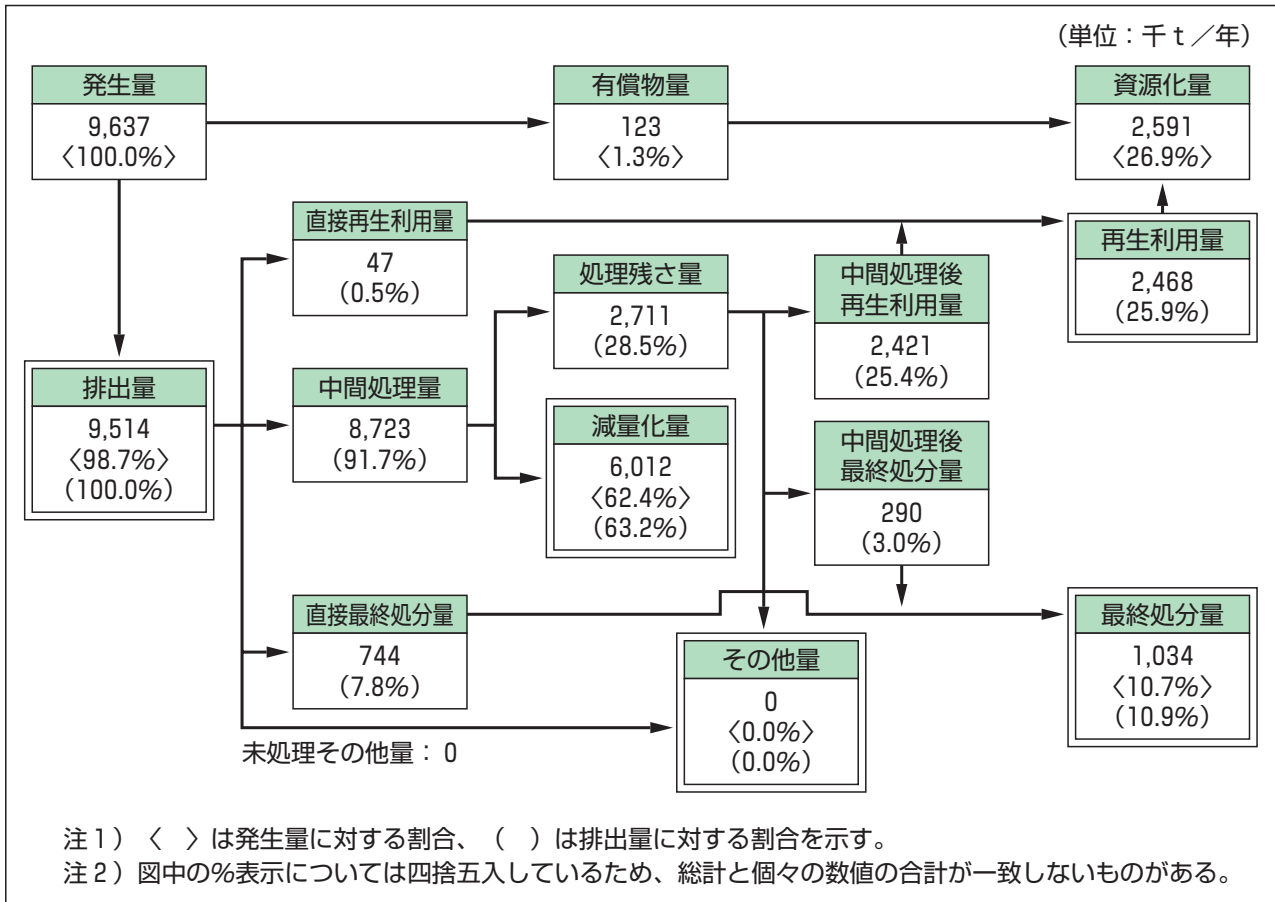
再生利用が多いのは、「動物のふん尿（38.7%）」、「がれき類（34.6%）」、「ばいじん（12.7%）」などです。

再生利用の用途としては、「飼料・肥料・土壌改良材」、「建設資材」、「セメント原料」が多く、これらの用途で全体の約93%を占めています。



参考

産業廃棄物の処理フロー（平成16年度）



3. 廃棄物処理の課題

一般廃棄物

- ゴミ排出量の抑制
- リサイクル（循環的利用）の一層の推進
- ゴミ処理費用の低減
- 焼却による環境負荷の低減
- 熱エネルギーの回収
- 最終処分場の確保
- 生活排水対策の推進
- し尿処理施設の確保

産業廃棄物

- 排出抑制とリサイクル推進
- 「産業廃棄物税」の導入
- 不法投棄防止対策の強化
- 有害廃棄物対策の推進
- 優良産業廃棄物処理業者の育成
- 最終処分場等処理施設の確保